

妓生と遊女からみた社会的位置づけの変遷

立正大学大学院 李 京真 (8548)

キーワード：遊女・遊廓・妓生

1. 研究目的

日本の公娼制度は日本だけでなく、東アジアにも大きな影響を与えてきた。特に、韓国の妓生制度は日本の植民地政策のなかで、社会的位置づけが激変してきた。

そもそも韓国の妓生と日本の遊女は教養人で、高い水準の教育により訓練された芸者であり、芸を業にしていた人たちである。しかしながら、芸能の遂行者として、特別な待遇と社会的地位を維持してきた芸者としての認識はあまりにも少ない。これは日本でも韓国でも共通点としてあげることができる。

ここで、本発表では韓国の妓生と日本の遊女の歴史的な流れとどのような社会的位置づけをもっていたのかについて注目し、その変遷について検討することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

韓国の妓生は高麗時代の女樂制度により宮廷で官妓の芸能を遂行してきた。妓女とは妓生の一種類として最高級の妓生を指している。また、高麗の女樂制度は体系的に運用しており、宮廷歌舞を担当させる教坊を設置し、妓生を専門的な芸能として遂行させる基盤を作ったのである。李能和によれば、高麗が百済を制圧したときに強制的に集めた者を、奴(男)婢(女)として各官に割り当て、その婢の中から見目麗しく芸のあるものを選抜し、化粧させ飾り立て、歌舞を習わせたのが妓生だったという。

日本の遊女は奈良時代の万葉集には遊行女婦と表現があり、いくつかの歌が収められている。平安時代になると遊女という表現が使われるようになるが、遊女とは踊り子や歌い手の女性たちを指していた。これらの女性たちは住居をもたず旅・遊行をしながら暮らし旅をしていたことから遊女といわれたという。後藤紀彦によると中世初期の遊女たちはあそび、あそびめ、うかれめ、遊女、遊君、傾城等と総称するが、主として水辺に住んで小舟を操って客を求める遊女と、陸地の宿屋によっていた傀儡女に大別されるとしている。

そもそも芸能者としての位置づけであった視点から妓生と遊女はどのように変化してきたかについて比較検討する。

3. 倫理的配慮

本発表は日本社会福祉学会の研究倫理指針に準拠している。研究に用いる資料は自説と他説とを峻別するが、本研究は歴史的研究であるため、引用等には差別的表現とされる用

語や社会的に不適切とされる用語も含まれているが、歴史的表現としてそのまま引用した。また、当日配布する資料は、韓国語文献は発表者が翻訳した日本語のみとした。

4. 研究結果

遊郭は女性の神性視が行われ、非日常の空間であり、世俗の法律が通用しなかったという特別な空間であった。特に、吉原の監督官としての武士も、武家出身者ではなく忍者出身者が行き、公儀とは距離を置いた。古くからは巫女から遊女において聖なる存在として位置づけられている。

時代をみると、平安時代や鎌倉期においても、家族制度は妻問婚が主であり、貨幣経済と男性優位の家父長制や嫁取婚は浸透していなかった。平安時代と同じく母方の父が優位という執権政治の形態が続いていたことから明らかである。性の買売春は座や町衆などによる市の支配の確立と、惣領制や嫁取婚が成立するまでは、広がりを見せない。「ウカレメ」や「アソビメ」「白拍子」は和歌や舞が仕事であり、性は恋愛感情から来る性交渉しか見出すことができない。

しかし、1528年、室町時代の幕府は傾城局を設置し、遊女を管理・課税をし始める。それから公娼制度としての始まりは1589年、豊臣秀吉により土地の整備と一緒に、京都に二条柳町（京都の島原）という遊里を設置し、散在していた傾城屋を整理し、遊女を一カ所に集めたことであった。

明治政府は徳川幕府の公娼制度の政策を引き継いでいるが、1872年のマリア・ルーズ号事件を契機として芸娼妓解放令が出される結果となった。また1885年ごろは日本の女性の多くはからゆきとして東アジア、東南アジアに売られており、女性のほとんどは農村、漁村などの貧しい家庭の娘たちだったという。仕組みとしては中間斡旋である嬪夫と女衞と呼ばれた業者により女性たちが売られたことである。これ以降、1894年から始まった日清戦争により日本人男性が朝鮮に居住しはじめ、それを相手として日本人女性が朝鮮に渡っていくことになった。

高麗と朝鮮時代の妓生は歌舞樂の核心的な役割を果たしていた女樂制度により、宮廷と教坊で官妓の芸能を遂行していた。また、両班男性の多様な私的遊戯のなかで、家柄の高い史大夫を相手に性的享有の対象にもなっていたのである。妓生は多くの貴族や文人が宴会で妓生に送る漢詩を書き、教養のある妓生はそれに応える詩を返したという。

しかしながら、日本の植民地政策は朝鮮に日本の公娼制度を移植する。このなかで、朝鮮では遊郭の誕生とともに、公娼制度が始まる結果となり、当時、売春婦と芸妓だった集団を区別しないまま、妓生は娼妓と酌婦として変質していく。